

平成 3 1 年度 事業計画書

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)



学校法人 九州国際大学

(平成 31 年 3 月 28 日 理事会)



— 目 次 —

I. 基本方針	1
II. 平成 31 年度予算概要	3
1. 教育活動収支	4
2. 教育活動外収支	5
3. 特別収支	5
4. その他	5
III. 事業計画・方針	
[学校法人]	
1. 人事関係	6
2. 施設拡充関係	6
3. 財務関係	8
4. 情報公開	8
[九州国際大学]	
1. 教育概要	9
2. 教育支援	12
3. 学生支援	15
4. 就職支援	16
5. 研修事業	17
6. 地域貢献	17
7. 国際交流	19
[九州国際大学付属高等学校]	
1. 教育概要	21
2. クラス編成	22
3. 進路サポート体制	23
[九州国際大学付属中学校]	
1. 教育概要	25
2. 教育活動の特色	25
3. 教科目標	26
4. 教育設計	26

I. 基本方針

[学校法人]

学校法人九州国際大学の創立は昭和 22 年です。以来、“北九州地域の文化向上を目的とし、塾的精神により知識を授けるとともに、誠実有為なる人材を養成する”という建学の精神は今日まで脈々と受け継がれてきています。

本学園の使命・役割は、今日の私立学校を取巻く環境がますます厳しいものへと変化していく中で、地域に立脚し地域に有為なる最高学府を擁する教育機関として、今一度、本学園の原点である建学の精神に立ち返り、余すところなくその精神を汲み現代的変容の中にも先取りの精神をもって常に次世代を見据えつつ、その本分を如何なく発揮していくことにあります。その上で、本学園で働く教職員全員が本学園の新しい教育・経営ビジョンの実現を目指して、実践活動を行うための指針として『学校法人九州国際大学 第三期中期経営計画（2019 年度～2023 年度：5 年計画）』を策定しております。

第三期中期経営計画は、「九州国際大学中期計画」、「九州国際大学附属高等学校＜目指す学校像＞」、「九州国際大学附属中学校教育改革プラン」を中核に据え、各学校での自己点検・自己評価等による課題の認識やその解決や展望を踏まえたものです。

経営理念に基づく、後述の各戦略それぞれについて目標を設定し、目標の可視化を実施するとともに、毎年度末に各目標の達成状況を確認していきます。

このことにより、次なる業務の行動目標を明確に定め、目標達成に向けた組織的対応を実施するよう業務の工程管理（マネジメント）を適切に実施していきます。

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 戦略Ⅰ | 【教育力】：地域に根ざし、地域に必要なとされる教育の実践 |
| 戦略Ⅱ | 【研究力】：地域課題に基づく研究活動の実施 |
| 戦略Ⅲ | 【社会力】：教職員人材等の地域活動への参加 |
| 戦略Ⅳ | 【募集力】：本気で学ぶ生徒・学生の獲得を目指した定員充足率の向上 |
| 戦略Ⅴ | 【経営力】：経営効率化、組織活性化による財政基盤の安定と計画の実行 |

今後の経営改善計画の実行にあたっては、財務的な裏付けによる経営資源の選択と集中を図り、組織の構成員である教職員が一体となって改革に取り組んでまいります。特に、学校教育の根幹である教職員の育成に努めることはもとより、本格的な私立学校経営の実践とその進捗の管理に取り組んでいきます。

[大学・大学院]

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

大学・大学院部門は、平成 29 年 4 月の学部改組により現代ビジネス学部（地域経済学科・国際社会学科）を設置したことに伴い、2 学部 3 学科 2 研究科体制で教育研究活動を展開しています。

また、教育研究活動及び地域貢献活動に基づく「教育の質の向上」、「出口の成果が入口の水準向上に繋がる好循環の創出」に向け、“地域に根ざした教育重視の大学”を中期目標に掲げ、教職員が一体となって『第三期中期計画（2016 年度～2020 年度）』を推進します。卒業後は自立した職業人・社会人として活躍できるよう学部の教育基盤を更に強化し、「就業力」、「学士力」を育ててまいります。

[中学校・高等学校]

附属中学校・附属高等学校は、高等学校の「共学化」という大きな改革を実施して以降、県下トップの志願者を獲得するなど、北九州地域から注目を集めています。今後も、教職員・生徒の力を結集し、「独自性のある」、「活力のある」学校づくりに一層取り組んでまいります。

本校の価値は「授業」であり、それを行う「教師」にあると考えております。授業アンケートや職員研修会を通じて教師力の向上を追及し、「わかりやすい授業」を提供していきます。

今後は、学校評価への取り組みを通じて“地域ナンバーワンの私学”を目指した改革を実践します。

Ⅱ. 平成 31 年度予算概要

平成 31 年度 学校法人九州国際大学 事業活動収支予算書

(単位:百万円)

科 目			予 算	備 考
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,589	
		手数料	73	入学検定料等
		寄付金	0	
		経常費等補助金	853	施設関係補助金は特別収支に計上
		付随事業収入	63	寮、エクステンション等の補助活動収入
		雑収入	239	施設設備利用料等
		教育活動収入計	3,817	
	支出	人件費	2,245	
		教育研究経費	1,208	
		管理経費	356	事務管理費、学生募集経費
		徴収不能額等	0	
教育活動支出計		3,809		
教育活動収支差額		8		
外収支	収入	教育活動外収入計	4	受取利息・配当金
	支出	教育活動外支出計	1	借入金等利息
	教育活動外収支差額		3	
	経常収支差額		11	
特別収支	収入	資産売却差額	0	
		施設設備寄付金	10	
		施設設備補助金	12	
		特別収入計	22	
	支出	特別支出計	0	
	特別収支差額		22	
〔予備費〕		30		
基本金組入前当年度収支差額		3	旧会計基準の帰属収支差額	
基本金組入額合計		▲ 289		
当年度収支差額		▲ 286	旧会計基準の消費収支差額	
前年度繰越収支差額		▲ 6,671		
基本金取崩額		0		
翌年度繰越収支差額		▲ 6,957		
(参考)				
事業活動収入計		3,843		
事業活動支出計		3,840		

※1) 平成 25 年 4 月 22 日に文部科学省令第 15 号「学校法人会計基準」が公布され、40 年ぶりに会計基準が改正されました。これに伴い、平成 27 年度より、新たな会計基準に沿った計算書類で経理処理等を実施しています。上記事業活動収支計算書は、旧会計基準における消費収支計算書にあたるもので、単年度の収支を 3 つ(教育活動収支・教育活動外収支・特別収支)に区分して示したものです。

※2) 単位未満を四捨五入しているため、実際の計算書類の合計と一致しません。

「産業構造や経済社会の変化」、「グローバル化」、「少子高齢化」など、学校法人の経営にとって極めて大きな環境の変化を迎える中、本学園においては、経営力を一層強化し、継続的・安定的に質の高い高等教育を提供することにより、学生・保護者はもとより地域・社会の信頼と支援を得ていくことが重要です。文部科学省の教育改革は、「2040 年度に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)平成 30 年 11 月 16 日」等を踏まえて、様々な政策提言や法改正が行われています。平成 31 年度の予算は、それらの教育改革の方向性をもとに事業を点検し、計画を見直すことを前提に編成しております。

大学・大学院部門は、平成 29 年 4 月に学部改組によって現代ビジネス学部(地域経済学科・国際社会学科)を開設し 2 学部 3 学科体制となり、新たな体制への移行内容(改革期)を踏まえた予算に再編しています。また、次期認証評価受審を念頭に学修成果の可視化など、教育の質向上に向けた取り組みを強化します。

中学校・高等学校部門は、「北九州の私学の雄」として、進学校たるブランド力を維持するため、

生徒に提供する教育の質の向上が求められており、高大接続改革に基づく学習指導要領の改訂や教育の情報化加速プラン等を踏まえ ICT 教育を加速し、学校改革の「核」として捉え競争力の向上に努めます。

設置する各学校の事情を考慮し、学校法人全体として学生・生徒の確保による収入増に努めるとともに、収入の多角化や調達方法の効率化及び定型業務の集約型アウトソーシングなど、経営の合理化についても継続的に検討いたします。

支出の部で大きな割合を占める人件費等の費目について、総額（総数）管理を前提とした構造改革を推進します。

施設設備等の保全・整備については、法令順守や学生生徒の安心安全を確保するものを最優先として実施します。また、費用対効果の分析に基づく運用改善、エネルギー対策等の投資効果を考慮した実効性ある施設設備更新計画を策定し、サステイナブル・キャンパスの形成に向けた対策を講じていきます。

1. 教育活動収支

(1) 教育活動収入

① 学生生徒納付金

入学定員確保を最重要課題として募集活動に取り組みます。また、大学では教育の質保証システムを構築し、中退予防等を含む教育支援に取り組むことで収容定員充足率の向上に努め、安定的な収入を確保します。

② 経常費等補助金

大学部門における私立大学等経常費補助金については、近年、文部科学省の政策誘導型補助に比重を置いた採択型の補助事業が展開されているため、補助金収入を保守的に試算しております。教育の質保証システム構築のためにも、「私立大学等改革総合支援事業（採択制）」など、教育改革の原資となる補助事業の採択に努めてまいります。

高等学校・中学校部門における福岡県私立学校経常費補助金は、一定の在学学生数を維持しているため、前年並みの収入を見込んでおります。

このように、平成 31 年度の補助金収入については、各部門の状況及び過去の受給傾向等を考慮して収入計上しています。

③ 付随事業収入

受託研究事業は、自治体・企業・研究機関との連携により、国策・地域政策と合致した実践的研究に参画し、学園のプレゼンスを高めていきます。また、その他の外部資金（学外研究等）を獲得し、これらを活用した研究スタイルを推進することで研究費調達の多様化を図ります。

高等学校生徒寮（橘寮・華橘寮）は、平成 29 年度に新たに食堂を整備し、寮生の食生活の充実を図るとともに日常生活や修学上の支援を実施しており、一定の稼働率を保持しています。

④ 雑収入

施設設備利用料について、学園の PR を兼ねて広く周知し、学校法人の財政基盤の一助となるよう外部の利用を促進いたします。

(2) 教育活動支出

① 人件費

「前年度賞与支給率の維持」、「非常勤講師経費などの削減」に努め、予算編成方針に基づく数値目標内で予算措置を図っています。引き続き、総額人件費の管理に努めていきます。

② 教育研究経費及び管理経費

予算編成方針に基づき経費等を積算し、教育研究経費及び管理経費は増加しています。

主な取組みとして、大学部門では、「教務システムの機能追加」、「PC 教室パソコン更新」に加え、「キャンパスの無線 LAN の更新 (Wi-Fi 化事業)」を実施します。中高部門では、「教務システムのバージョンアップ」等にかかる経費を計上しています。

また、大規模事業経費として、「平野・枝光両キャンパスの建物外壁打診検査」、「平野・枝光両キャンパスの雨漏り補修工事」、「枝光キャンパスの校舎等壁・床補修工事」にかかる経費を計上したことが増加の要因です。

2. 教育活動外収支

(1) 事業活動収入

① 受取利息・配当金

近年は、退職給与引当特定資産の大部分を定期預金で運用しています。減価償却引当特定資産においても安全性を考慮して普通預金・定期預金・地方債等により運用しています。これら特定目的資産の運用については、引き続き銀行預金中心の運用を行い、安全性・流動性を重視します。

3. 特別収支

(1) その他の特別収入

① 施設設備寄付金

安全で充実した教育環境と質の高い教育内容を提供するためには、より一層の安定した財政基盤の確保が求められます。学園のさらなる魅力づくり及び持続的発展のため、平成 30 年 6 月に特定公益増進法人の更新手続きを行い、大学、高校及び中学の教育研究用施設設備及び環境整備を目的として寄付金募集事業を実施しております。

4. その他

(1) 施設設備関係

施設の長寿命化や省エネルギー化に向けて、保有資産を健全に維持していくことが重要と考えております。今後も、質の高い教育研究環境の確保に向けた機能向上はもちろん、施設の劣化・損傷に対応する修繕、設備機器の点検保守をはじめとした保全計画の策定に努め、整備・保全費用の平準化に向けたファシリティ・マネジメントを強化いたします。

また、施設設備関係の事業計画については、財政負担の軽減を考慮し、積極的に補助事業を活用するよう効率的かつ効果的な設備投資に努めてまいります。

Ⅲ. 事業計画・方針

[学校法人]

1. 人事関係

(1) 組織改革・人事体制

事務効率化と学生サービス機能の向上を両立させた事務組織に再構築するため、管理部門及び教学対応事務部門を再編し、新体制に移行します。事業規模に見合った適正な職員数及び年齢構成にするため段階的に是正を行い、「有期雇用契約職員の業務及び雇用形態の見直し」、「新卒者の定期採用及び即戦力となる人材の中途採用」等により人材の確保に努めます。

(2) 働き方改革への取り組み

平成 30 年 7 月に「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が公布されたことから、職員の勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方を実現するため、実態の把握と併せて学校及び教育職員が担う業務の在り方を見直し、長時間労働の是正に向けて検討を行います。

(3) 職場環境の安全・衛生保持

労働安全衛生法に基づき、本法人の職員の安全及び衛生に関する事項について、各事業場（平野キャンパス・枝光キャンパス）で安全衛生委員会を開催し、「職員の健康保持増進」、「安全な職場環境の保持・改善」、「労働災害の防止」等について継続的に検討を行っています。職員の健康保持については、健康診断及びストレスチェックの結果等に基づき、産業医との連携を図りながら、当該職員の実情を考慮したうえで必要な措置を講じます。

2. 施設拡充関係

(1) 機器・備品整備関係

部門	設置場所	件 名
平野キャンパス (大学)	平野キャンパス 各棟	AED 一式
	平野キャンパス 各棟	無線 LAN 一式
	保健室	視力計・体脂肪計
	メディアセンターPC 教室	デスクトップ PC・プリンター
	メディアセンター	教育系 AD サーバ
	平野記念館 1 階	製氷機
枝光キャンパス (高等学校)	D 棟普通教室前	生徒用ロッカー (10 台)
	生物教室 1・2	デジタル顕微鏡
	第一体育館	バスケットゴール
	保健室	デジタル体重計・オージオメーター
	テニスコート	アルミ審判台
	職員室	共有サーバ
枝光キャンパス (中学校)	教室	生徒用椅子
	職員室	マイク付きスピーカー
	第 3 体育館	バスケットゴール

(2) 施設整備関係

部門	設置場所	件 名
平野キャンパス (大学)	平野キャンパス 各棟	手すり塗装工事
	2・3号館、メディアセンター	空調機インバーター取替工事
	メディアセンター	エレベーター不具合箇所補修工事
	研究棟	屋上防水補修工事
	学生駐車場	ブロック塀撤去及びフェンス設置工事
	多目的グラウンド横	屋外照明追加工事
枝光キャンパス (高等学校) (中学校)	第3体育室 跡地	第3体育室 代替施設建築
	B棟 保健室	カーペット取替工事
	C棟 食堂	空調機取替工事
	第二グラウンド	屋外照明追加工事
	第三グラウンド	屋外照明追加工事
	第三グラウンド	ブロック塀撤去及びフェンス設置工事
	第一体育館	バレー支柱補修工事
	第一体育館・第二体育館	屋内消火栓ホース取替工事
	C棟～A棟・共用棟・F棟	拠点間光ケーブル取替工事
	橘寮・華橘寮	タイルカーペット取替工事
	全建物対象	雨漏り補修工事
	全建物対象	教室内壁紙・床補修工事
	全建物対象	消防設備不具合箇所修理工事

(3) 情報・通信機器整備等

① 無線 LAN 環境の整備

平野キャンパス全域に無線 LAN 環境を構築し、教育・研究をはじめ多目的に活用できる環境を整備します。これにより、一般教室における PC を用いたアクティブラーニングなど、先進的で自由度の高い教育サービスが提供できる環境が実現します。また、導入が予定されている教育システム「UNIVERSAL PASSPORT」のスマートフォン向けアプリの活用を支援します。

さらに、本学での学会・イベント開催時や災害発生時に Wi-Fi 環境を開放するなど、社会貢献・地域連携のツールという点でも幅広く活用することを検討してします。

② 平野キャンパスの教育用・業務用システム更新

現在、平野キャンパスで稼働している教育用・事務用の Windows サーバ及びクライアント PC について、導入後の年数経過に伴い OS のバージョンが旧式化しているため、最新版 OS へのバージョンアップを順次実施します。併せて、一部の装置（「PC1～3 教室」の学生用パソコンなど、主として教育用のもの）については、より高性能な本体に更新します。これにより、最新機能の導入による ICT 教育環境の刷新並びに業務効率化を高めるとともに、強固なセキュリティ体制を維持し、システムの安定運用を図ります。

③ Microsoft Office ソフトウェアの更新

現在、本学が採用しているオフィスソフトウェアは導入から長期間経過しており、ファイルの互換性がとれないケースやオフィスの資格取得の学習をする際にも最新バージョンでの操作練習ができない状況がでてきました。これらの問題を解決するため、最新版の「マイクロソフト オフィス 2019」を全学的に導入し、ドキュメント制作環境を刷新することで互換性等の問題解消を図り、最新の学習

環境を提供します。

3. 財務関係

一般経費の予算編成に関しては、事業計画の効果予測を検証し根拠に基づき予算積算しています。建物・構築物・修繕工事・備品等の固定資産取得に関しては、優先度を勘案し予算化しています。資産運用については、引き続き定期預金等の安全性の高い運用に努めていきます。また、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金は順調に返済しており、当該年度の返済額も約定日までに返済します。

これらを総じて、適正な予算執行を促すため予算説明会等を開催し、事業着手前の予算措置や規程を遵守した経理手続きに関して啓蒙すると同時に、学園の財政安定化に必要な検討課題に対して、様々な視点から提言を行ってまいります。

4. 情報公開

私立学校法第 47 条及び私立学校法の一部を改正する法律（平成 16 年法律第 42 号）等の法令に基づき、財務情報・教育研究活動等の情報をホームページ等で積極的に公表していきます。また、「学園情報誌（キュウトビ）」や「大学要覧」を発刊し、本学園の取り組みや財務情報、学生活動を紹介するなど、広く情報提供するとともに「大学ポートレート（私学版）」へ情報公表についても、必要に応じてメンテナンスを実施していきます。

また、新しい教育・経営ビジョンの実現を目指して、実践活動を行うための指針として『第 3 期中期経営計画（2019 年度～2023 年度：5 年計画）』を策定・公表し、公教育を担う法人としての責務を果たしていきます。

[九州国際大学]

1. 教育概要

《教育改革の方向性》

大学の教育の質の向上、ガバナンス改革の推進等の背景を受けて、文部科学行政の施策が加速するとともに大学への社会からの期待は高まっています。

産業界から求められる人材を育成するためには、より一層の教育改革が必要であることから、ナンバリングや履修系統図を意識して、科目の配置や体系化に向けたカリキュラムを検討し、“地域社会から必要とされる人材”の育成モデル構築に向けた改革を進めてまいります。

(1) 法学部 / 法律学科

法的なものの考え方をベースにした、あらゆる問題に柔軟に対応できるジェネリックスキル（汎用的技能）は、どのような時代にあっても不可欠なものです。グローバル化が進み、先の読めない現代社会では、ますます必要な能力といえます。アクティブな学びで、理論と実践のバランスのとれた実社会で活躍できる人材を育てていきます。

[法律学科]

◆ リスクマネジメントコース —警察官や消防官など公務員を目指す—

警察官、消防官、行政職員に必要な危機管理の考え方や手法を学びます。行政・企業等におけるリスクが増大するなか、将来性の高い分野です。

◆ 資格取得コース —国家試験合格を目指す—

宅地建物取引士や行政書士などの国家資格取得や、法律のスペシャリストを目指す人のロースクール進学をバックアップします。

◆ キャリアコース —組織運営のスペシャリストを目指す—

学部設立した法人組織に参加し、学生自らが学んだ法律等を使い、実際に組織を運営することを通じてビジネスに必要な組織運営能力を育成します。全国でも例のない画期的なコースです。

(2) 現代ビジネス学部 / 地域経済学科・国際社会学科 （平成 29 年度開設）

グローバル化が進む現代社会では、国はもとより地方の企業や自治体においても、その対応が急務となっており、それぞれの自治体では人口減少や高齢化に対応するために、地域の特性を活かした新たな「まち・ひと・しごと」の創生が求められています。そのような時代のニーズに応えるために新設したのが、現代ビジネス学部です。

基礎となる経済の知識や語学力だけでなく、グローバルな視点とローカルな視点をあわせ持つことで、さまざまな課題に柔軟に対応し、解決へと導くことができる人材を育てていきます。また、これまで以上に実践型のプログラムを取り入れることで、多様な人と協働できる高いコミュニケーション能力を養います。

[地域経済学科]

◆ 経済コース —経済の知識をもとに地域貢献できる人材を育てる—

多領域にわたる経済の知識を獲得し、あらゆるビジネスシーンで活用できる力を養います。

◆ **経営コース** —ビジネスリーダーとして地域に貢献する人材を育てる—

経営の主要 3 分野（経営・会計・流通）の理論を総合的に学ぶことで、企業のマネジメントに携わることができる人材を育成します。

◆ **地域づくりコース** —地域づくりのマネジメントに精通した人材を育てる—

建学以来、地域に根ざし、地域とともに歩みつづけてきた九国大ならではの専門コースです。地域活性化をテーマに、農村体験やイベントの企画運営など地域と連携した活動を通じて、地域課題を解決できる企画力と実践力を培っていきます。

◆ **観光ビジネスコース** —観光を切り口に地域貢献できる人材を育てる—

今後ますます成長産業として期待される「観光」をキーワードに、課題解決型の学びと実践的なプロジェクトで、あらゆる業界で即戦力となる力を養います。

◆ **スポーツマネジメントコース** —スポーツを通して地域の発展に寄与する人材を育てる—

ビジネスマナーや経済学、経営学の基礎知識を習得しながら、スポーツ関連ビジネスに求められる知識やスキルを磨いていきます。地域のスポーツチームなどと連携したフィールドワークが多いのが特長です。地域とつながりながらスポーツ体験を将来の仕事に活かしたい人、指導者になりたい人にも最適なコースです。

[国際社会学科]

◆ **英語コース** —国際理解に明るく、高度な英語力を備えた人材を育てる—

「聞く」「話す」「読む」「書く」力を高め、「使える」英語力の獲得を目指します。学んだことを実践・発展させるために海外体験を必修化し、新たにカナダとフィリピンに実習先を開拓します。英語を活かした職業に就くためにも必要な知識も習得させ、国際社会で活躍できる総合力を養います。

◆ **ハングルコース** —韓国を理解し、日韓の橋渡しとなる人材を育てる—

日韓を中心に国際ビジネスの現場で活躍できる人材、地域の魅力を広くアジアに向け、発信できる人材を育てます。人的交流が盛んな隣国への知識を深め、実践的な学びを通して韓国語を修得し、交換留学や海外実習などで国際感覚を磨きます。

◆ **国際コース** —現代の多言語・多文化社会で活躍する人材を育てる—

国際的な視野をもち、異文化への深い理解に根ざして他者と協働しながら、国内外のさまざまな分野で活躍できる人材を育成します。異文化理解や新興国・途上国について知識を深め、体験的な学習を通して国際的な視野を広げます。

(3) 経済学部 / 経済学科・経営学科（平成 29 年度、現代ビジネス学部へ改組転換）

多様化する現代社会で「問題発見能力」、「問題解決能力」を発揮できる人材を育成することが経済学部の教育目標です。そのため、国内外の様々な経済活動を理解できることや、今の国際化や情報化した社会に沿った幅広い教養と専門的知識、さらに、高いコミュニケーション能力を養えるようカリキュラムを工夫しています。

経済学科は、将来、企業や地域社会で活躍したい人のための学科です。経済の理論と知識を修得し、世界と地域の経済を見つめる確かな目と、深い教養、豊かな人間性を身につけた人材を育

成します。また、経営管理やマーケティングを学んで、実践的なマネジメント能力や情報・会計のビジネススキルを修得したい人のために、経営学科を設けています。

[経済学科]

◆ 地域づくりコース — 地元企業・地方公務員を目指す —

より良い社会づくりに貢献できる人材を育成する。それを地元のフィールドを活用して実践するのが「地域づくりコース」です。知識の修得だけではなく、実践力を育てることを重視した体験型学習。農村の現状を知るための田植え・稲刈り体験や、地元企業へのインターンシップ、さらに、地域再生の歴史や事例、手法を学び、実際にイベントや店舗運営などを通して、地域社会の問題を解決できる力を養います。

[経営学科]

◆ ビジネスアカウンティングコース — 税理士・会計士を目指す —

専門的な会計の知識を持ったビジネスパーソンを育てるコースです。15名限定の特別クラスで、4年間会計学担当の教員が徹底指導します。まず目指すのは、日商簿記検定2級の全員合格。さらに1級合格者、税理士や公認会計士を目指しての大学院進学というように、エクステンションセンターと連携して知識を蓄積し、管理会計や財務管理など専門科目によって応用力を養い、4年次では卒業論文に取り組みます。こうした一連の学びから、分析結果を明解な文章で表現できる、大卒ならではのプロを育てていきます。

◆ ビジネスリーダーコース — 実務体験で生きた経営を学ぶ —

企業経営に必要な知識とスキルを身につけることを目的としているのが「ビジネスリーダーコース」です。家業を継ぐ人や、将来、起業を考えている人はもちろん、各部署のリーダーや経営幹部といった企業の中核を担う人材を育成するための、本格的なプログラムを用意しています。地元企業でのインターンシップや、北九州の企業経営者によるリレー講義など、体験を重視した生きた経営学を学びます。さらに3年次では、ビジネスゲームやケーススタディの分析・ディスカッションで、発想力や問題解決力を培っていきます。

◆ ビジネス・アスリートコース — スポーツと勉学の両立を目指す — （※両学科共通）

スポーツに関する科目やフィールドワークを多く取り入れた科目が特長で、将来、指導者を目指す人材や経済・経営学の視点から企画・運営を行い、地域に貢献できる人材を育成していきます。

◆ 企業人養成コース — 総合職や営業で活躍する企業人を目指す — （※両学科共通）

イベントプランニングやビジネスデータ分析などを学び、提案や企画力に優れたビジネスマンを育成していきます。

(4) 国際関係学部 / 国際関係学科（平成29年度、現代ビジネス学部へ改組転換）

近年では、国境を越えた経済・社会のつながりや日本と諸外国との共生が重要な時代となっています。グローバル化が進む世界の中では、他国の文化や社会を理解し、真の国際感覚を養うことが大切です。国際関係学部は、そんな時代と社会の要請に応え、国際教養とグローバルなコミュニケーション能力を備え、真に世界で活躍できる人材の育成を目指します。語学力を磨くのはもちろん、相手の国の文化や社会・経済の仕組みを理解するために、豊富な外国人教員の授業や

多彩な海外実習制度など、これまでの学際的教育と外国教育を更に深めていきます。

[国際関係学科]

◆ 英語コース — 使える英語を身につけるための学習支援 —

国際関係学部の柱の一つである国際言語運用能力、その中でも「英語」は「世界共通言語」として最も重要な言語です。英語コースは徹底した英語教育を行います。

到達度別クラス編成で、自分の英語力に適したクラスからスタートし、レベルに応じて段階的に学習していきます。

◆ ハングルコース — 韓国語と「韓国」を学ぶ —

ヒトやモノ、情報の流れが広がり続ける日韓両国では韓国語を駆使できる人材が求められています。ハングルコースは、楽しさと実践的な講義で、需要が高まる韓国語のスペシャリストを育成します。

◆ 観光ビジネスコース — 実践的アプローチの学習 —

旅行、ホテル、鉄道などの観光ビジネスを中心とするホスピタリティ産業への就職を目指します。ホスピタリティ産業とは、旅行やホテルのみならず、旅客を扱う鉄道やバス、航空、テーマ・パークなども含まれます。このような分野において求められる能力を培うことができるように、実践的・実務的なアプローチを重視するとともに、関連する資格・検定対策に必要な知識を提供できるようにカリキュラムや支援制度を準備しています。

◆ 国際協力コース — 協働する技術を学ぶ —

NGO や NPO、青年海外協力隊や国際関連機関などで将来的に活躍できる人材を育成します。国際関係学部が力を入れるホスピタリティに根ざしたコミュニケーション能力は、まさに国際協力の取り組みに必要とされるものです。語学はもちろん、グループワークなどの参加・体験型学習を通じて対話を積み重ね、国内外での実践的な「実習」を数多く経験していき、教員と学生が二人三脚で取り組んでいきます。

(5) 大学院 / 法学研究科・企業政策研究科

大学院修士課程は、高度専門職業人の養成を目的としての知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する様々な問題を解決するための法知識の習得を目指します。

企業政策研究科では、経営実務に関する高度な知識、企業を取り巻く外部環境にかかわる専門知識をもつ人材の育成を目指します。

2. 教育支援

(1) 入学前教育プログラム

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、推薦入試・AO 入試の入学予定者に対し「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施します。今年度より新たに e ラーニング教材による基礎学力ドリルを導入し、入学前から 1 年生段階での初年次教育のツールとして活用することで、より効果的な教育支援を実施していきます。

また、入学前の不安を解消し、安心して学修できるよう「入学前教育スクーリング」を実施いたします。

(2) 学士課程教育の体系化

ディプロマ・ポリシーと各科目到達目標との関連性、学習内容の順次性、科目間の内容の関連性、必修・選択科目の区分など、多様な要素を表現した「カリキュラムマップ」、「ナンバリング」を作成しています。教え手である教職員と学び手である学生の双方が、「見える化」されたカリキュラムを共有することにより、学生が4年間で学ぶ道のりを俯瞰できるよう取り組んでいます。

また、現行のカリキュラム（教育課程表）が適切に機能し、ディプロマ・ポリシーを満たす学生を育成できているかなど、アセスメントポリシーに基づき多面的かつ総合的に点検・評価を行います。教員と学生双方が、授業を通してどのような力が身についたかを評価し、その評価の下にどの部分が基準を満たしたのか、また、どの部分が弱いのかを洗い出し、次年度の学修改善に繋げ、さらなるカリキュラムの構築に努めています。

(3) 初年次教育

学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために、学生一人ひとりを大きく育てる教育に取り組んでいます。授業科目の共通教育科目の基礎科目に必修科目として、入門セミナーⅠ・Ⅱを配置し、大学で学ぶために必要となる読解力や論理的思考力等の基礎的な学修スキルや問題発見・解決能力やコミュニケーション能力等の社会人基礎力を身につけていきます。この授業は、大学における人間関係や居場所の構築のための役割も果たしています。

また、初年次教育の一環として、新入生研修（FM：フレッシャーズ・ミーティング）、体験型学習（フィールドワーク）、学生に応じた目的達成支援（PASS：Project of Achievement Support for Students）を実施し、基礎学力や目的・職業意識の醸成に寄与していきます。

(4) 学生ポートフォリオによる学修成果把握

学生が、学生生活の自己管理のために授業での学習成果を振り返り、“学んだこと”、“気づいたこと”、“知り得たこと”を「学生ポートフォリオ（Assessmentor：アセスメンター）」に記録します。その記録をもとに、ゼミ担当教員及び職員がアドバイス（記録）を行います。このようなインタラクティブ（双方向）な活動を継続的に実施し、具体的に“どのような力が身についたのか”、“どの力がどの程度向上したのか”、学生自身が視覚的に把握することで、さらなる成長を促すよう取り組んでまいります。

(5) 公務員受験対策総合プログラム

本プログラムは、カリキュラムの正課授業及び公務員受験対策講座、相談ブース（チューター制度）等を複合的に組み合わせ、公務員を目指す共通の目的を持った学生を支援し、公務員希望者の底上げを目指していくものです。1年次ではチューターが公務員試験ガイダンスや職場見学などを行い、公務員という職業に対して興味・関心を促します。2年次では、カリキュラムに配置している「キャリアプラン（公務員希望者クラス）」で公務員に必要なスキルを学びます。

同時に、公務員受験対策講座（基礎教養コース）を受講させ、必要に応じてチューターが大学内の専用ブースにて受験相談、学習相談などを個別に行います。3年次では、カリキュラムに配置している「キャリアプラン実践（公務員希望者クラス）」で公務員試験の学習計画の立案やエントリーシートの書き方など、具体的な受験対策を行います。

さらに、公務員受験対策講座（教養型市役所コース）、公務員受験対策講座（地方上級・国家一

般職コース)を受講させ、公務員合格者(目標:合格者数30名)を輩出できるようサポートしていきます。

(6) PROG テスト (外部評価試験) の導入

社会人として活躍できる能力「ジェネリックスキル (汎用的な技能)」を測定する PROG テストを全学部に導入しています。PROG テストは、基礎力を「リテラシー」と「コンピテンシー」の2つの側面から測定するテストです。「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるものです。「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるものです。この PROG テストの結果を参考に、学生個別の力を把握しながら学生の指導に役立てていきます。

(7) 実践型教育の推進

実社会と協働した実践型教育を行い、社会人に不可欠なソーシャルスキルが身につくだけでなく、自ら体験することで知識を学ぶ必要性を実感でき、学びのモチベーションアップにも繋がっていきます。

学生が能動的に学ぶ学習法としてアクティブラーニングを推進し、教育の充実を目指します。また、社会実習、地域連携活動や海外での体験的な学習機会を設けるために、海外提携校での語学実習、外国事情研修、国内外でのボランティア活動や企業実習等を開講します。

(8) スタディスペースを活用した教育支援

スタディスペースでは、学生が講義の空き時間に訪れ、「オフィスアワー」で待機している教員から講義でわからないところを納得のいくまで学べる学習支援に取り組んでいます。学生の動向や相談内容が多様化するなかで、研究室では不都合が生じる場合、学生が気軽に立寄り、多種多様な相談が可能な空間です。学生生活をサポートするインフォメーション的な役割を、SA (チューデントアシスタント)、教員、職員が協同で支えています。教員への相談だけに留まらず、グループ学習や自主的なミーティングにも利用を広げています。

(9) 基礎教育センター教育支援

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、推薦入試・AO入試の入学予定者に対し「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施します。今年度より新たに「eラーニング教材」による基礎学力ドリルを導入し、入学前から1年生段階での初年次教育として活用することで、より効果的な教育支援を実施していきます。

また、入学前の不安を解消し安心して学修できるよう「入学前教育スクーリング」を実施いたします。高校で学んだ学習内容の復習や大学での基礎科目の復習など、将来就職試験に必要な学力を学生一人ひとりに合わせた個別指導やグループ学習による指導で教育支援を行っております。

外国人留学生に対しては、個別指導にて日本語能力の向上支援を行い、将来の就職活動対策として活用してもらえるよう教育支援を実施いたします。

(10) ビブリオバトル教育支援

ビブリオバトルとは、参加者が各々5分で本を紹介し、読みたくなった本(チャンプ本)を投票

して順位を決める書評会です。

本学では、ゼミ教育の一環として、ビブリオバトルを活用した教育支援を実施しており、各種大会への出場を目指して継続的に実施していきます。

(11) ラーニングコモンズ

学生の自律的な学習を支援する目的で各大学においてラーニングコモンズが展開され、主体的・創造的な学びのスタイルが推進されています。本学でも、ラーニングコモンズを運営しており、複数の利用者が集って図書館資料を用いて議論を進めていく「教育の場」を提供しています。学修効果を向上するための活用方法やゼミ教育の場としてのあり方を研究しつつ、ビブリオバトル等のプログラムを実践する場としても活用していきます。

3. 学生支援

(1) 課外活動の活性化

四協団体（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）との連携を図り、新入生オリエンテーションの場を活用して各団体の活動紹介を実施し、体育系サークルや文化系サークルへの入部を促進していきます（目標：サークル加入率50%）。

また、大学スポーツの振興を目的とした一般社団法人大学スポーツ協会「UNIVAS^(注)」の趣旨に賛同し、その設立背景にある社会的意義を適切に解釈しつつ、体育系サークル活動の支援に取り組んでまいります。これらの取組みの一環として、体育系サークルの指導者、顧問に対する研修会、学生への活動についてのアンケート等を実施し、学生生活の充実と問題対策・予防に努め、サークル活動の活性化を目指していきます（目標：研修会開催2回/年、アンケート実施2回/年）。

体育会本部では、「多目的グラウンド^{ケイアイユー フィールド}（**KIU Field**）」や「体育館アリーナ^{ケイアイユー ドーム}（**KIU DOME**）」を活用した学長杯スポーツ大会などを企画・開催し、学生の課外活動を積極的に支援していきます。

大学祭実行委員会との連携を図り、大学祭への一般学生並びに教職員の参加促進と企画立案を行い、大学祭を盛り上げていきます。

このように、サークル並びに四協団体の活性化と同時に、これら団体の管理運営（イベント運営、事務手続、会計処理等）についても積極的に支援し、自治指導及びトラブル防止に努めていくことで健全かつ活気ある学園づくりを目指していきます。

（注）UNIVAS（Japan Association for University Athletics and Sport）

日本版NCAA設立準備委員会にて、検討を重ねて参りました大学スポーツに係る大学横断的かつ競技横断的統括組織「一般社団法人 大学スポーツ協会」（通称UNIVAS）が、平成31年3月1日に設立されました。

(2) 女子学生への支援

女子学生の交流促進のための「女子部屋」は、現在、女子学生の憩いの場として活用されています。新学期の初めに「女子部屋」を広く知ってもらうため、新入生に向けてイベントを企画していきます。年間を通してやわらかカフェや保健室と連携を図り、様々な企画を提案していきます（目標：イベント開催4回/年）。

女子学生の交流が活発化し、主体的な活動が広く展開されることで、大学の魅力発信に繋がっていきます。

(3) 学生のニーズ調査

学生満足度を向上させることを目的として、学生自治会主催の連絡協議会（春学期：2回、秋学期：2回、計4回）を開催し、四協学生（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）の代表との意見交換を通じて学生のニーズを聴取します。

また、従来から継続して取り組んでいる学生生活満足度アンケートを実施し、学生のニーズの把握に努めていきます。アンケート結果については情報公開するとともに、大学に対する要望等を一つひとつ実現することで学生の満足度向上を目指します。

(4) 保護者連絡会の実施

学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振等を解消するために相談会を実施します。大学側と学生・保護者を交えて質問や相談に応じます。また、これらの相談会以外に就職関連の講演会などを開催することで保護者に必要な情報を提供していきます。

4. 就職支援

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU—SPICE」

KIU—SPICE（Kyushu International University Support Program In Career Education の略称）は、本学の教育理念である「理論と実践両面に明るい人材養成」をキャリア形成において具体化を図り、入学からの4年間を通じ、社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるための正課授業によるキャリア教育と、学生に自己理解・自己発見の機会と知的刺激を授けるための就職活動支援講座、各種就職セミナー、インターンシップ等により構成されるキャリアサポートを統合して展開する体系化されたキャリア形成支援プログラムです。本取組みは、学生の多様化が進む中で、大学教育の質的保証を図り、学生の主体的人格形成による学士力の確保を目的に、持続的・発展的に取り組む事業となっています。

これまでのキャリア形成支援プログラム「KIU—SPICE」を基軸としつつも、正課授業のキャリア教育科目を就職環境に即した内容へと更に発展させ、正課授業である「キャリアデザイン」、「キャリアプラン」、「キャリアプラン実践」の中で体系的に業界研究や自己分析、履歴書及び面接指導等を盛り込み、就職活動に直結する実践的な内容のものとして再構築しました。

また、昨今、企業選びの志向が、勤務地、特に地元志向が顕著になっていることを踏まえ、北九州商工会議所とも連携を図りつつ地元企業の魅力を伝えるなどの取り組みも導入しています。

その他にも、求人検索 NAVI システム「就職支援 NAVI システム」を新たに導入することで、教職員と保護者も、本学の求人情報をリアルタイムで閲覧することを可能にしました。このように、学生、保護者、大学の三者が相互に情報を共有し学生の就職活動を支援する仕組みが構築されたことで、これまで以上に密な連携が図られ、大きな成果が期待できます。

(2) エクステンションセンターによるキャリア支援

エクステンションセンターでは、資格取得講座、就職支援・スキルアップ講座、教養講座、その他提携講座など、学生の学習ニーズにあった各種講座を企画し開講しています。

平成31年度は、公務員、公的・民間資格、国家資格の受験対策講座として9講座22コースを予定しており、講師には、専門学校講師や実務担当者を中心としたエキスパートを起用し、適切な受験技術や指導法による高い合格率の実現を目指します。専門学校より安価な料金設定のうえ、

講義時間数も多く、大学に通いながら資格を取得できるだけではなく、そのことが同時に就職活動でのアピールにもなります。

さらに、目的意識の高い学生同志と一緒に学ぶことで相互に刺激を受け、必然的にやる気を起こさせる相乗効果も狙え、高い実効性を確保することができます。

5. 研修事業

学校法人九州国際大学職員人事規則に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に研修等を実施しています。FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）活動の目的は、教職員の職能開発であることはもとより、教育の質保証に不可欠な活動になります。FD 研修では「学士課程教育の質的保証」、「アクティブ・ラーニング」、「授業研究」等を中心として、各学部・研究科において実施してきた研修を継続的に展開していきます。

また、授業アンケートの分析結果などを踏まえて、FD 委員会・教務委員会において対策を講じ、授業運営の改善を図っていきます。

SD 研修についても、「スタッフ・ディベロップメント（SD）に関する大学設置基準等の改正（平成 29 年 4 月）」に基づき、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要な研修機会を設け、教員と協働する専門性の高い職員の育成を目指します。

6. 地域貢献

(1) 地域連携推進助成事業

地域連携センターでは、本学の有する学術的な蓄積（人的資源・知的資産）や教職員・学生等の力を活用して、地域づくりに取り組んでいる方々や団体を支援することを目的とした地域連携推進事業を実施します。

(2) 北九州市民カレッジへの参画

地域連携センターでは、市民の多様なニーズに対応した学習の機会を提供するため、北九州市（生涯学習センター）事業の「高等教育機関提携コース」に参画しています。受講ニーズを踏まえ、本学教員を中心に講座編成を行い、満足度の高い講座の提供を目指します。

(3) 北九州市年長者大学校穴生学舎シニアカレッジへの参画

本学地域連携センターと北九州市社会福祉協議会穴生学舎との共催事業としてシニアカレッジを実施します。

本事業は、年長者のニーズに対応した生涯学習の拠点として、その社会参加の促進を目的とした研修事業です。受講ニーズを踏まえて講座のテーマを設定し、本学教員を中心としたプログラムを編成いたします。

(4) 九州国際大学「市民講座・市民相談」の開催

本学地域連携センターと九州国際大学同窓会橘会との共済事業として「市民講座・市民相談」の開催を計画しています。日常生活に関連して発生する法律の諸問題等についての講演や市民相談に応じます。原則として、前期と後期の 2 期にわたり、毎月第 2・第 4 の土曜日、各期 10 回の開催を予定しています。

(5) 「ひとみらい交流ウィーク」への参画

地域連携センターでは、副都心黒崎のにぎわいづくりを目的とした「ひとみらい交流ウィーク」に参画し、「終活セミナー」を計画しています。平成 28 年度より始めた同セミナーは好評を得ており、平成 31 年度も継続して実施する予定です。

(6) 九州国際大学「地域連携センター市民講座」の開催

地域連携センターでは、本学の人的資源と知的資産を活用したオリジナル講座を企画し、地域市民や地域社会への貢献を目指します。

(7) 大学コンソーシアム関門事業への参画

関門地域の高等教育機関が相互に連携・協力し、関門地域の高等教育の充実及び発展を図るとともに、高等教育機関が地域社会へ貢献する目的で結成された大学コンソーシアム関門に参画し、本学教員が講座を担当します。

(8) ボランティア活動への参加

ボランティアサークルに所属している学生を中心として地域のボランティア活動（前田地区非行防止・防犯パトロール等）に参加しています。地域等からのボランティアの要請に応えるよう各サークルとの連携を図り、積極的な参加を呼びかけています。また、学内掲示板においてボランティア募集案内を広く周知し、一般学生への参加も奨励しています。

(9) 前田祇園山笠行事への参画

本学が位置する地元地域では、「さくら祭り（4月）」、「七夕の夕べ（7月）」、「前田祇園山笠巡行・競演会（7月）」、「夕涼み会（8月）」、「ふれあいもちつき大会（12月）」などの祭事がとりおこなわれています。前田祇園山笠の山笠行事は、600 年以上の歴史を有し、遠賀川流域圏で古くから展開されてきたと考えられ、北九州市無形民俗文化財に指定されています。本学は、地域に開かれた大学として、教職員及び学生が主体となってこれら行事へ参画し、地元地域との交流を深めながら、地域貢献していきます。

(10) 地域行事への参加と連携

地元地域で開催される市民祭「まつり起業祭八幡」のイベント（ストリートダンス、アカペラ、吹奏楽等）や同祭の清掃活動ボランティアに教職員及び学生が参加します。

また、産学官で組織される地域イベント「つながる絆！八幡」との連携・協力、「北九州市成人式実行委員会」への学生委員参画など、地域貢献に取り組んでいきます。

(11) Dream100 作文コンテスト

九州・山口の高校生を対象に「Dream100 作文コンテスト」を実施しています。この事業は開学 80 周年（平成 20 年）に始まり、設定されたテーマに基づいて、高校生の皆さんに 100 文字以内で自由に思いを綴っていただくコンテストとなっています。この企画は中等教育活性化の一助になることを期待した社会貢献事業として継続して実施いたします。

(13) 高大連携事業

本学では、文部科学省の教育改革（高大接続改革等）や地域課題（三大都市圏への人口流出等）の背景を受けて、3つの高大連携（①出張講義、②高大連携、③教育連携）を実施しています。地域の子供たちを地域で育み、地元企業での活躍を期待する好循環への一助となることを意図しています。

① 出張講義

高等学校からの依頼により本学の教員が高等学校へ出向き、関心の高いテーマでわかりやすく講義を行います。これは高校生の「知りたい」、「学びたい」という気持ちを育てようと、地域貢献活動の一環として実施しています。

② 高大連携（広域連携）

高等学校から要望された教育テーマに基づいて、本学独自の大学体験プログラムや出張講義を定期的に行い、高等学校と大学による共同で連携教育を行うものです。平成30年度までに9校との連携協定を締結しており、今後も本学の活動に賛同くださる学校との教育連携事業等を展開してまいります。

連 携 校		
柳川高等学校	博多高等学校	下関国際高等学校
慶成高等学校	高稜高等学校	開新高等学校
秀岳館高等学校	対馬高等学校	別府溝部学園高等学校

③ 教育連携（地域連携）

北九州市内の高等学校と教育連携を図ることで、地元企業で活躍する人材を地域という枠組みで育成しております。地元の人口滞留を図るとともに地域の活性化を狙いとした取り組みとして、平成30年度までに10校と高大教育連携協定を締結し、地元北九州の活性化を目指し、教育連携事業等を展開しております。

連 携 校		
八幡中央高等学校	若松高等学校	北九州市立高等学校
北九州高等学校	小倉西高等学校	中間高等学校
小倉南高等学校	ひびき高等学校	門司大翔館高等学校
八幡南高等学校		

7. 国際交流

国際的視野を持った人材を養成するため、アジア地域を中心とした諸大学との国際交流を推進しています。海外の諸大学（中国・韓国・台湾・インドネシア）と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開しています。

また、現代ビジネス学部の新設に伴い英語圏の大学との交流を推進するため、シリマン大学（フィリピン）・カルガリー大学（カナダ）と学術交流に関する覚書を協定し、学生を研修派遣しています。

平成 31 年度は、本学学生の需要が最も高い、交換留学・短期海外留学プログラム（海外語学実習・海外社会実習）に関する協定に向けて、英語圏（オーストラリア）及び韓国の大学との交渉を進めてまいります。

（主な国際交流事業）

- **交換留学制度** : 協定校（中国・韓国・台湾・インドネシア）への留学（半年又は1年間）
- **認定留学制度** : 海外の大学に留学（半年又は1年間）
- **海外社会実習** : 主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- **海外語学実習** : 長期休暇を利用した語学留学（カナダ・フィリピン・アメリカ・イギリス・台湾・韓国）

[九州国際大学付属高等学校]

1. 教育概要

男女共学として生まれ変わった付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統と、北九州屈指の進学・スポーツ実績をもつ学校としての誇りを胸に、より質の高い教育を実現します。“九国付”が掲げるコンセプトは、「知・徳・体」のバランスがとれた人材の育成です。「真の学力伸長は人間的成長なくしてはありえない」という今までの教育実践の中で培われてきた経験から、進学校としての実績に軸足をおきつつも、決して受験勉強一辺倒ではない全人教育を実践しています。高校で過ごす3年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成に努めてまいります。



「現役合格」を実現する、充実のカリキュラム

1・2年生の間は、難関クラスから進学クラスまで共通のカリキュラムで授業が実施されます。そのため、進級時のクラス入れ替えもスムーズに行えます。問題集やプリント類による演習量や進度は、クラスによって違います。正課授業だけでも、公立高校より多い週35単位を確保。また、より多くの学校設定科目（演習）の導入により、大学入試問題に対応した授業を展開。充実の学習計画で、志望大学への「現役合格」へ導きます。

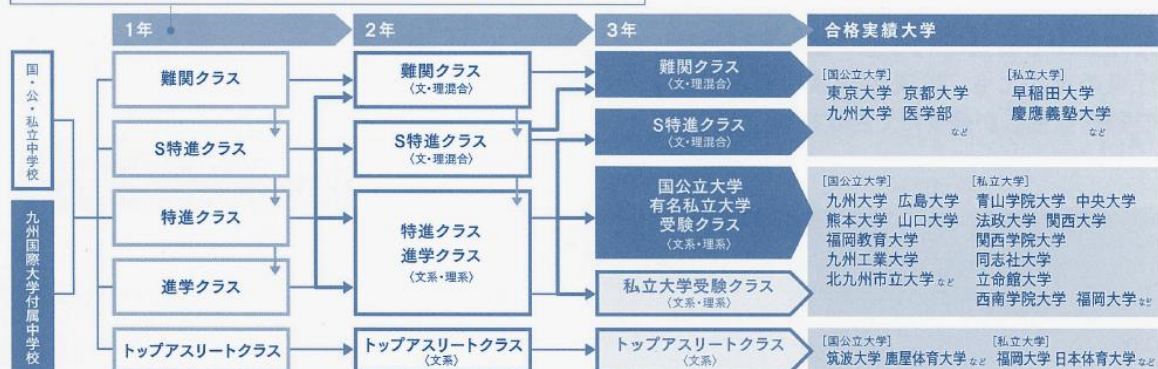
2. クラス編成

クラス	概 要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
S 特クラス	S 特進クラスは、九国付の最上位である難関クラスと常に良い競争意識をもち合っています。同じ校内に互いを高め合えるライバルがいるからこそ、緊張感をもった学習を継続することができます。S クラスと難関クラスは九国付のツートップです。
特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指す特進クラス。 2 年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。毎年、国公立大学に多数の合格実績をあげる原動力になっています。
準特進クラス (2・3 年生のみ)	国公立大学や有名私立大学の受験を視野に入れた充実のカリキュラムで、やる気をしっかりサポート。生徒の意思を尊重した指導で、更なるレベルアップを促し、志望大学への現役合格を目指します。なお 2019 年度の新入生からは、準特進クラスを特進クラスに吸収し、更なるレベルアップと進学実績の向上を目指します。
進学クラス	有名私立大学を初めとする大学進学を中心に、適性に応じて幅広い進路へと導く進学クラス。マナー教育やクラブ活動・ボランティア活動も積極的に推進。個性と才能を伸ばし、更なる成長を促します。
トップアスリート クラス	推薦試験で入学する生徒を対象に 2 クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図るとともに、他のクラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

個性を大切にしたクラス編成

進路に対応したクラス編成

1 年生は、入学試験の成績や本人の希望により、「難関クラス」「S 特進クラス」「特進クラス」「進学クラス」に分かれます。



※進級時には、成績及び本人の希望に応じて、各クラス間の入れ替えがあります。
※準特進クラスは、平成31年度入学生より特進クラスに統合します。

クラス別特徴一覧

※1…特進クラス・進学クラスを希望した生徒でも特待生の採用基準に達していれば選抜されます。
難関クラスは全員「A特待（全額支給）」、S 特進クラス上位者は「B特待（半額支給）」に該当します。詳しくは、P33をご覧ください。
※2…一部、スポーツ推薦入学者については、免除になる場合があります。

	特待生制度 ※1	7限授業	6限授業	朝の10分間 読書	クラブ活動	特別講座 (朝)	特別講座 (放課後) ※2	特別講座 (土曜) ※2	夏期 特別講座	冬期 特別講座	夏季 学習合宿 勉強会	春季 学習合宿 勉強会	校外模試	海外研修 (短期)	海外留学 (長期)
難関クラス	●	●	—	●	▲	—	●	●	●	●	●	●	●	▲	▲
S 特進クラス	▲	●	—	●	▲	—	●	●	●	●	●	●	●	▲	▲
特進クラス	—	●	—	●	▲	—	●	●	●	●	●	●	●	▲	▲
進学クラス	—	●	—	●	▲	—	●	●	●	●	▲	▲	●	▲	▲
トップアスリートクラス	▲	—	●	●	●	—	—	—	—	—	—	—	▲	▲	—

●…必修(全員) ▲…希望制(一部) —…該当しない

※ 2019 年度の新入生からは、準特進クラスを特進クラスに吸収し、更なるレベルアップと進学実績の向上を目指します（2・3 年生の準特進クラスは継続です）。

3. 進路サポート体制

(1) 大学入試改革・新テスト対策と ICT^(注) 教育

本校では 2020 年度の大学入試改革を踏まえ、既に様々な準備や検討を進めています。各教科担当教員は数年前から説明会や各種セミナーへの参加を積極的に積み重ね、ディベート授業やアクティブラーニングの実践は既に始まっています。

また、英検等の各種資格試験への対応も個別指導の充実を図りつつ、その合格実績を高めています。加えて平成 31 年度から、校内全教室に Wi-Fi を完備し黒板投影型プロジェクターを設置、さらには、新入生全員に個人専用のタブレット型 PC を所持してもらい、動画学習や調べ学習といった協働的な学びに活用します。現在多くの大学入試で導入を予定しているポートフォリオ(生徒の活動・実績記録)の作成や活用も可能になります。

(注) ICT (Information and Communication Technology)

情報通信技術 (Information and Communication Technology) の略であり、IT (Information Technology) とほぼ同義の意味を持つが、コンピューター関連の技術を IT、コンピューター技術の活用に着目する場合を ICT と、区別して用いる場合もあります。国際的に ICT が定着していることなどから、日本でも近年 ICT が IT に代わる言葉として広まりつつあります。

(2) 学習・進学サポート

各種 ICT 機器を活用しながら、いち早く「目標」を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立し、土曜日や放課後に加え長期休暇中の特別講座を実施し、進学(合格)に向けての準備を万全にしています。

また、各種ガイダンスを実施して、勉強方法や受験までの心構え、受験動向などを早期から指導します。

(3) 入試対策

大学入試改革を視野に入れた「小論文・面接対策」、「資格取得指導」、「大学進学説明会」、「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。

(4) データに基づく進路指導

タブレット端末や Classi (クラッシー)^(注) システムを利用して、生徒と担任とのコミュニケーションを図りながら、生徒の成績を個別にコンピューターで管理・分析し、各々のデータに基づき数値やグラフと照らしあわせ、目標に向けて具体的な進路指導を展開します。各種データや情報は生徒や保護者に提供され、志望大学への指針を明確にして現役合格へと導きます。

(注) Classi

Classi 株式会社 (クラッシー) はベネッセとソフトバンク (2016 年にソフトバンクグループに商号変更) の合弁会社であり、情報通信技術を活用した教育事業を手掛ける企業です。Classi は、ICT を使って教育現場をサポートするクラウドサービスであり、PC やタブレット、スマートフォンにも対応し、高校、中学校、小学校、専門学校など多くの教育現場で活用されています。

(5) 放課後・休暇中の学習フォロー

生徒一人ひとりの学習計画を踏まえて、昼休みや放課後、夏休み、冬休みなどの学習を支援します。生徒の習熟度や個性を熟知した教員が手厚く指導し、合格へと導きます。

(6) 関東・関西の難関大学視察

生徒が目標とする進路を実現するため、学力向上への取り組みの一環として、1 年次に関東・関西地域の名門大学視察を行っています。ハイレベルな大学を実際に自分の目で見ることにより、生徒の受験意識を高めます。また、視察により、各教員の指導力強化の意識をも高め、難関大学をめざす生徒への学力向上へとつなげます。

[九州国際大学付属中学校]

1. 教育概要

中学校では、「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成」、「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を教育目標としています。教育活動全体を通して、良き市民たるに相応しい社会性を育てるとともに、豊富な体験型学習により個性豊かな人間性の涵養に努めること、また、基礎的な学力を習得させるとともに思考力・判断力・表現力・発表力を含めた確かな学力を培い、その結果に立って進むべき道を自ら自由に選択・決定することを教育方針として学校教育の充実に努めてまいります。

目指す生徒像として「志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒」、「優しさと思いやりの心をもって積極的に行動する生徒」、「自らに厳しく、責任感を持って、たくましく活動する生徒」を掲げて、成長段階に応じた自立を促し感性豊かな「人間力」を育てます。

2. 教育活動の特色

合言葉を「K点(目に見えない、思い込みによる自分の限界点)突破!」とし、成長の段階に応じて自立を促し、汎用的能力の高い個性豊かな生徒を育てます。



3. 教科目標

磐石の学習体制と豊富な体験学習を両輪に、人間形成、確かな学力、体力の向上を培います。

科目	目 標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身につけ、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力を養成します。
数学	数学的な見方や考え方を育て、数学を学ぶ楽しさ・社会的有用性を感じることができる授業を展開します。また、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得するためのドリル学習を充実させます。
社会	地理・歴史・公民の学習を通して、現代社会における様々な出来事を自ら考え分析する力、社会を構造的に理解できる力を養います。また、演習問題も多く取り組み、基本的な知識の定着と応用力の伸長を目指します。
理科	自然に対する興味を持たせ、目的意識をもって実験・観察を行い、探求的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフ作成やレポート作成、論述などを取り入れ、科学的な思考力や処理能力、論述力を育みます。
英語	英語学習を通して 4 技能(読む、書く、聞く、話す)を向上させるとともに、自分の意見を正確に伝えたり、相手の考えや気持ちを理解したりするような、コミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルな視点から、異文化を理解し、尊重する態度を養い、かつ自国の文化をよりよく知り、次世代に継承していく精神を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取る力の向上を目指します。また、音楽祭に向けた学級合唱の練習を通し、曲のイメージや各声部の役割を理解するとともに、協調の大切さを養い育てます。
美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに、豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を、学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	心と体には密接な関係があることを学び、心身を磨き鍛えることによって、協力・共感・公平・公正・克己心・集中力など、何事も耐えうる心と体を育てます。また、健康の保持・増進を目指すとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ資質を養います。
技術	パソコンの使い方や情報モラルを含め、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について学び、それらを適切に評価・活用する能力や態度を養います。
家庭	自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を見につけます。また、実習を通して手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことのできる実践的な力を養います。
道徳	道徳の時間や教科、特別活動など全ての教育活動の時間を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え、探求しながら、道徳的価値に基づく人間としての生き方・豊かな心・道徳的実践力などを育てます。
総合的な学習の時間	さまざまな体験学習をより効果的なものにするために、事前の調べ学習や事後のレポート作成などに取り組みます。体験・学習発表の準備や校長面接のための自己分析・エントリーシート作成などの時間にも使います。机の上の学習だけでは得られない体験を通して、想像力・思考力・発表力を育みながら「未見の我」の発見に努めます。

4. 教育設計

充実した中学校生活を過ごし、未来をみつめ、より高い進路の実現を目指します。

(1) 進路指導部

大学体験教室、職業体験教室・職業適性検査・Dream14、高校体験教室などの活動を通して、生徒に将来設計を描かせ、なりたい職業を通してよりよい社会の実現に寄与する、良き市民を育てます。また、実力テストや校外模試を通して受験への意識強化、競争意識を刺激し、事後指導をていねいに取り組み、生徒の第一志望校合格を支援します。

(2) 一年次二人担任制

生徒が「中 1 ギャップ」を克服し、スムーズに中学校生活に入っていけるよう 1 年次に男女 2 人の担任を置き、生徒をきめ細かく観察、指導します。また、先生にとっても、生徒をより多面的に見ることができ、よりの確な指導が可能となり、いじめの起こりにくい環境、学習に取り組む快適な環境となります。

(3) 高校自由選択制

中学生にとっては「高校入試」は大切な節目であり、義務教育の学習を総まとめする絶好の機会です。本人と保護者が自由に高校を選択・決定して入試に立ち向かわせるという方針を取ります。併設校である付属高校への進学は、付属高校を受験すれば原則として保証されますが、よりハイレベルクラスへの合格を目指し、高い意識で受験できるよう支援していきます。

(4) 2つの高校入試で学力形成

これから生きる子どもたちには、「レベルの高い知識や技能」、「知識や技能を生かした思考力・判断力・表現力」、「知的関心や意欲、学ぶ姿勢」が求められます。子どもたちの将来を考えると、これらの基礎となる力を中学生のときにしっかり身につけておくことが大切と考えます。

中学校では、高校入試という関門を学力形成の絶好な機会ととらえ、「付属高校入試で知識・技能」、「公立高校入試で思考力・判断力」を育てるよう努めております。そのため、進路希望とは関係なく、2つの高校入試を受験することを基本として学習指導を進めます。





発行 / 学校法人 九州国際大学 法人事務局
〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL : 093-671-8900 / FAX : 093-671-9032